

ドイツ映画ゼミナール

嘘つきヤコブ

Jakob der Lügner

11月16日(木)

17:00-19:30

上智大学中央図書館8階L821

監督: フランク・バイヤー
原作: ユーレク・ベッカー
出演: ブラストイミール・ブロドスキー
エルヴィン・ゲショネック
製作: 1974年東独・チェコスロバキア

上映作品: ドイツ語(日本語字幕付)
講演: 日本語
参加費無料
事前申し込み不要

舞台は第二次大戦下の、とある東欧の町。

このユダヤ人たちは、厳しいナチ支配下のゲットーで明日も知れない希望のない生活を送っている。占領軍本部に行かされたヤコブは、そこのラジオでソ連軍が迫っているとのニュースを聞く。絶望して自殺者の絶えないユダヤ人たちは、ヤコブからこのニュースを聞き生きる希望をいだく。仲間を勇気づけるためヤコブは次々と嘘を重ねていく。

作品上映の前後に、**字幕制作者**によるトークがあります！

上田 浩二: ドイツ文化研究者、通訳者・翻訳者。専門はドイツ演劇・ドイツ映画、日独比較文化。早稲田大学、筑波大学、獨協大学特任教授を歴任。ベルリン日独センター次長、ケルン日本文化会館館長を経て、現在ドイツ語学院ハイデルベルク学院長。

吉川美奈子: ドイツ語字幕翻訳者。上智大学外国語学部ドイツ語学科卒。主な字幕翻訳作品: 『帰ってきたヒトラー』『ありがとう、トニ・エルドマン』『ハンナ・アーレント』『ヒトラーへの285枚の葉書』『アイヒマンを追え！ ナチスが最も畏れた男』『ヒトラーの忘れもの』など。

東ドイツ唯一の映画会社DEFAは、ドイツが再統一された1990年までの40年ほどの間に700本ほどの劇映画を制作している（その他にアニメ750本、2000本を超すドキュメンタリーや短編映画も制作）。その東ドイツ映画を代表するフランク・バイヤー監督が1974年に撮った作品が、この『嘘つきヤコブ』。ゲットーの過酷な条件のもとで生きるユダヤ人たちの姿が、ときに切なく、ときに明るく、ほのぼのとした人間愛をもって描かれている。それが、DEFAの作品の中で、アメリカのアカデミー外国語映画賞にノミネートされた唯一の映画となった理由だろう。そして、1999年にはアメリカでリメイクされている。主人公ヤコブを演じたブラストイミール・ブロドスキーは、この作品でベルリン映画祭の銀熊賞（主演男優賞）を得ている。主人公の親友の理髪師、あるいは主人公に匿われている小さな女の子、若い恋人たちなど、脇をかためる俳優たちの演技も素晴らしい。（上田浩二）



Copyright: DEFA-Stiftung, Herbert Kroiss



【主催】 上智大学ヨーロッパ研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階 721 B

Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp

【協力】 ドイツ映画文化発掘フェスティバル実行委員会、DEFA財団